

巻頭挨拶

事業計画の 着実な実践が 松楠会の 目的を果たす



松楠会会長
小比賀 俊彦

岩島会長のご勇退に伴い、会長を仰せつかった小比賀俊彦でございます。終戦直後の9月生まれ、香川大学には学芸学部に入學し、教育学部で卒業した私は、年齢的にも、能力的にも適任者でないことは自覚していますが、諸般の事情もあって、お引き受けいたしました。

さて、昨今の教育界環境の変化は年々加速されています。本会の目的の一つである「母校と一体となって教育振興の実をあげる」ために松楠会として何ができるのか。その具現化というべき事業計画をその視点で改めて考えてみました。

その一、「岩島前会長が就任以来、取り組んでこられた「若年会員活性化事業」」。この事業は、若年会員の松楠会活動への積極的な参加を促すだけでなく、日々の教育課題を話し合う場にもなっています。更なる充実を図らなければなりません。

その二、「松楠会支援事業」。この事業は、松楠会会員が企画・実施の中心となって、高校生以下の児童・生徒を対象にした教育活動や青少年の健全育成を図る事業です。会員の豊かな経験などを生かした社会貢献実践の事業です。毎年2～3団体程度の応募がありますが、更に多くの応募が望まれます。

その三、「学生支援事業」。この事業は、「未来からの留学生」「わくわくコンサート」「教育学部国際交流支援事業」に助成する事業です。確実に実施していきます。

その四、「学術援助事業」。この事業は、教育学部学術基金へ毎年一定額を寄付し、学部の学術援助を図るものです。この事業もまた、確実に実施していきます。

また、昨年度から始まり今年度も、各支部の若年教員会員を大学に招き、授業の実践力向上を支援する計画が実施される予定であります。このことが、支部活動の活性化にもつながることを期待しています。

山神理事長をはじめ、理事役員の皆様方、会員の方々のご支援、ご協力を得ながら、これらの事業を円滑に運営して参りたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

「高度教職実践専攻 (教職大学院)」が 開設されました。



香川大学教育学部長・教育学研究科長
毛利 猛

松楠会会員の皆さまには、日頃より母校へのご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。平成28年度を迎えて、学部・研究科の現状と今後について報告させていただきます。

まず、教育学研究科においては、平成28年度4月に「高度教職実践専攻(教職大学院)」を開設しました。それとともに教科教育専攻が4つのコースに大括り化されました。教職大学院は、学校力開発コース、授業力開発コース、特別支援教育コーディネーターコースという3つの専門コースから成ります。初年度は15人の入学者(定員14名)を迎え、まずは順調なスタートをきる事が出来ました。

教育学部においては、昨年度に人間発達環境課程から学校教育教員養成課程への30名の定員移動、初等教員養成を強化するために小学校教育コース105名の定員化を行いました。拡充された小学校教育コースには、生活・総合領域という新しい学生研究室が立ち上がりました。平成27年度入学の2年生8名が、この新しい学生研究室の第1期生になります。先輩のいない研究室活動は、何かと苦勞も多いと思いますが、これから自らの手で新領域の歴史を創るという気概をもって、研究室活動を盛り上げてほしいと思います。

さて、大学全体では、平成28年度から第3期中期目標期間が始まります。香川大学は、人材育成や地域課題を解決する取組みなどを機能強化の中核とする国立大学法人として、第3期中期目標期間中の取組みを評価されることとなります。教育学部・教育学研究科としても、この人材育成や地域貢献を中心とする機能強化の方向性で、第3期中期目標期間中の取組みの成果を着実にあげていきます。

松楠会会員の皆さまには、どうか今後とも母校を応援していただきますようお願い申し上げます。

松楠会の新理事長として



理事長 山神 眞一

香川大学教育学部は、1890年(明治23年)香川県尋常師範学校に端を発し、香川師範学校・香川青年師範学校を母体として、1949年(昭和24年)香川大学学芸学部が発足し、1966年(昭和41年)に教育学部と改称され今日に至っており、現在までに約25,000人の卒業生を輩出しています。そして、松楠会(卒業生の会)の皆様は、全国に羽ばたき、広く教育界で活躍されています。

松楠会の活動は、歴代の会長様はじめ役員の皆様方のご指導とご尽力、さらには会員の皆様方のご理解とご支援によりまして、これまで充実・発展してまいりました。近年では、岩島卓前会長の強い思いで「若年会員活性化事業」に力を注ぎ、その成果が芽を出し始め、多くの支部における若年会員の参加が活発化してきています。

このような体制と状況の中で松楠会活動を先導してきたのは、佐藤明宏前理事長を中心とした学内理事会であります。佐藤前理事長の8年間にわたる真摯なリーダーシップのもと、各支部のニーズに対応した活動内容の実施と運営が行われてきました。ご尽力賜った関係各位に改めて感謝の意を表したいと思います。

一方、母校教育学部では「人間の発達・形成に関する教育研究を基盤に、教育に関する総合的な教育研究を行い、教育実践力を有する学校教育教員及び広く教育界で活躍できる人材を養成する」ことを学部目的として定め、改革を推進してまいりました。平成27年度には、学校教育教員養成課程の学生定員増(130名から160名へ)と附属教育実践総合センターから附属教職支援開発センターへの改組を行い、今年度は、教職大学院を新設するなど新しい教育学研究科をスタートさせました。

近年の大学改革の加速化は教育学部にも大きなミッションとして課されてきている中、母校教育学部の発展のためにも卒業生で組織されている松楠会の支援と協力が重要となっているように思います。このことは、2019年に松楠会130周年を迎える時期と重なって、母校と一体となった松楠会活動の意義が問われていると感じています。

以上のような大きな節目を迎えている母校を支えるとともに、松楠会のさらなる発展のために少しでもお役に立てるよう小比賀俊彦新会長のもと、松楠会活動に尽力してまいります。どうかよろしくようお願い申し上げます。

若年会員活性化事業

近年、多くの支部において総会や懇親会への参加者が減少したり、固定化・高齢化したりしているという現状が報告されていました。このような中少しでも若い力が参集できる機会を増やしていくために、平成27年度から新規事業として若年会員活性化事業がスタートしました。高松支部、綾歌支部、仲善支部、兵庫支部において、実技研修やワークショップ、情報交換の話し合い等が実施されました。

さらに教育学部の教職自主サークルの活動の充実に向けて、先輩の若年会員から教員採用試験に向けた模擬授業の指導を受けたり、学校現場の様子を聞いたりする交流会も開催されました。

参加した若年会員の声をご紹介します。

それぞれ勤務されている学校の様子をお聞きすることができとても楽しかったです。若手の輪が広がっていくようなこのような会をいろいろな場所で開催できたらいいなと思いました。

(高松支部 平成26年卒)

採用試験を受ける後輩たちの真剣に取り組む姿がとても素敵でした。この時期から上手に授業をしていたので頼もしく感じました。教員1年目でまだまだ未熟なので、後輩たちに教えられることは少ないですが、何かに生かされれば光栄です。後輩の模擬授業を見て、改めて授業を見てもらうことの大切さを学ぶことができ現場でも生かしていきたいと思います。後輩の皆さんの健闘をお祈りしております。

(先輩教員に模擬授業を指導していただくこう会に参加 平成26年卒)



退任挨拶

あなたのご意見で
大きな変化も生まれます……

前松楠会会長 岩島 卓男



120周年記念事業委員に続いて副会長、会長など、松楠会活動に7年余り皆様からご意見をいただきながら共に考え取り組んでまいりましたが、このたび会長を辞することとしました。皆様にはご指導をいただき、大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。

慣例に捉われず、大きく踏み出さなければならない課題もあったと思いますが、皆様と意を同じくするものについては、ご協力をいただきながら何とか取り組むことができたのではないかと考えています。一つ一つ、県内外、各支部にそれぞれの地域性や事情もあり、今後に期待を寄せつつも一部、課題を残したことは心に残るところであります。

社会の変化に合わせて松楠会を顧みると……ここ5年前後で松楠会員の年齢構成が大きく変わっていく……、経理的な予算立てが厳しくなっていく……、人間関係が縦横に紡げる事業への工夫が求められる、会員の年齢層に合わせた取り組み……など。とりわけ各支部からのご理解ご協力が必要なことでもあります。

最後になりましたが、今後も松楠会、各支部活動の充実にお力添えをいただき、3年後開催予定の130周年記念事業等にも、新会長(副会長)、理事長、記念事業実行委員が万全の態勢で取り組めますよう、皆様からのご意見、ご理解ご協力をお願い申し上げます、会長退任の挨拶にかえさせていただきますと思います。

関係の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

松楠会理事長を終えて

前理事長 佐藤 明宏



私は、8年間松楠会の理事長をさせて頂きました。私は香川大学に着任して20年になりますが、その間の理事長は、普通1年～2年で、最長が安西先生の4年であったので、おそらく在任期間の長さでは記録的なものと思います。それは自分が希望したのでは無くて、あくまで私の後任が居なかったからです。ですからあまり積極的に仕事をしたとは言えません。ただ、タイプの違う宮崎会長、橋本会長、岩島会長という3代の会長と実力者の副会長にお仕えできたことや、各支部の大先輩の方々を知ることができたのもこの理事長の職に居たからで、そういう点では、素晴らしい人生の勉強をさせて頂きました。

出来の悪い理事長でもなんとか8年間松楠会でやってこられたのは、ひとえに歴代会長・副会長の懐の広さと各支部の支えがあつてのことですが、それにも増して事務の岡田さんのお陰です。学生に同窓会に入って貰うための対応や各支部への対応、松楠会としての年間のスケジュール、会計処理、各会議の準備から接待まで、全て一手にきめ細やかに岡田さんに対応して頂いたお陰でなんとかやってこられました。

松楠会の組織としての素晴らしさと岡田さんの内助の功に深謝して、私は理事長の職を去ります。これからは、一学内理事として松楠会を支えて参りたいと思います。8年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

母校教員の異動

併任

平成28年4月1日 時岡 晴美 副学部長 H28.3.31 併任解除
野崎 武司 副学部長
時岡 晴美 附属高松中学校長
高木由美子 附属坂出中学校長
清水 顕人 准教授 高度教職実践専攻
橘 慎二郎 准教授 高度教職実践専攻

昇任

平成28年4月1日 教授 黒田 勉
教授 宮前 義和

退職

平成28年3月31日 退職(定年) 風間喜美江
退職(定年) 柴田 昭二 H28.4.1付け名誉教授
退職(定年) 新見 治 H28.4.1付け名誉教授
退職(定年) 武重 雅文 H28.4.1付け名誉教授
退職(定年) 藤原 章司
退職 稲田 隆之
退職 野原 雄一
退職 山内 玲
退職 谷本里都子 坂出市立瀬居中学校教頭へ

採用

平成27年10月1日 准教授 上野 耕平 鳥取大学准教授 大学教育支援機構から
平成28年4月1日 准教授 守田 逸人 東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター特任研究員から
准教授 宮本 賢作 福山市立大学都市経営学部准教授から
准教授 齋藤 嘉則 仙台市立吉成中学校校長から
准教授 佐藤 盛子 交流人事教員 高松市立鬼無小学校教諭から
特命教授 新見 治 香川大学教育学部教授から
特命教授 田村 道美 香川大学名誉教授から
特命教授 野村 一夫 丸亀市立飯山北小学校校長から
特命准教授 長谷 綾子 香川大学教育学部客員准教授から
特命准教授 松井 保 香川大学教育学部附属教職支援開発センター客員教授から

称号付与

平成27年4月1日 附属教職支援開発センター客員教授 大山 修
附属教職支援開発センター客員教授 岡 静子
附属教職支援開発センター客員教授 北堀 宏

計報

中川 益夫 (名誉教授) 平成27年9月1日 ご逝去
小池 和男 (名誉教授) 平成27年11月14日 ご逝去
安東恭一郎 (教授) 平成28年2月16日 ご逝去

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

転 退 職 教 員

より

香川大学での 活動を終えて

風間 喜美江



平成21年4月から7年間香川大学教育学部で仕事をさせていただきました。その間、皆様にはご指導、ご支援をいただきました。ありがとうございました。

これ以前の30年余りは、東京都の公立中学校の数学教員として勤務して参りました。東京の公立校は、私立進学の人気の高まりの時代へと変化し、いわゆるリーダー的な生徒が少なくなる傾向での勤務も体験しました。ですが、それぞれの時代で、「どうしたら数学を嫌いにさせないか」「どうしたら生徒の数学の力を伸ばせるのか」という課題は変わらず、常に魅力的な仕事であったと感じておりました。その間、数学教科書執筆、学習指導要領改訂の仕事、自分の授業の数学授業国際比較ビデオ撮りなどの機会に恵まれました。多くの研究者や実践者に会うことができ、その方々や生徒のお陰で、数学授業の重要さや深さを心に刻むことができ、より楽しい仕事ができたと感じております。

その後、香川大学教育学部に教員として就任することになったわけですが、ここでも、学生との交流や活動は充実したものでした。また、香川県の先生方との授業研究や研究交流も拡充することができ、より数学教育の輪が広がった感があります。

4月からは統計数理研究所の研究員として、また、東京・香川の授業研究会の一教員として、研究や教員養成に力を注ぎたいと思っており、その生活が東京・香川で始まっております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

退職のご挨拶

柴田 昭二



本年3月をもって、香川大学教育学部を退職いたしました。永年にわたり、教員・職員ならびに、松楠会の皆様のお力添えをいただいた賜物と感謝しております。お陰をもちまして心身共に健康なまま定年を迎えることができました。

振り返れば、1978年7月に国語教室の一員として採用され、各学年30名近い学生を相手に「義を講じる」立場に置かれた緊張感は懐かしいものがあります。将来の教員を目指す学生に講義をする責任は大層重く感じられました。幸いにも、その頃は教員を希望する者は殆どといった良いほど、教員に採用されていた時代でした。

その後、1988年に総合科学課程が創設され、教職以外の進路を希望する学生が比較的が多くなり、瀬戸大橋の開通により岡山県の出身者が増加するなど、学生の質的な変化を感じながら授業をする時期もありました。そして1998年の人間発達環境課程の発足に際し国際理解教育講座に所属しても、学部の理念は「教育に関わる人材を育成する」ことにあると思ひ続け、一途に教壇に立ち学生に接してきた38年間ほどの教員生活でした。

4月からは、非常勤講師として週に四日5コマ(週によっては6コマ)の授業を担当しています。いずれも国語の教員免許や日本語教員の資質に必要な授業ですので、引き続き香川大学教育学部の傍らで学生の教育のために微力を尽くすつもりでおります。

最後になりましたが、松楠会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝をお祈り申し上げます。

退職のご挨拶

— 香川大学での36年間

新見 治



本年3月で65歳を迎え定年退職しました。在職中は、同窓会・松楠会の皆様にはご厚情とご支援を賜りました。心からお礼申し上げます。

私が本学部に赴任したのは1980年4月でした。専門は地理学、水文学で、一般教育、社会科の自然地理学、地誌学、初等社会などの授業を担当しました。地理は地名や統計を憶える教科と誤解され、「旅は好きだけど、地理は嫌い」という状況が生まれます。この誤解を解くためにも、若い学生たちと共に県内の市町や島を日帰り巡検したり、3泊4日で西日本各地を訪ねる野外実習などを行いました。フィールドでの様々な出会いは、自らの世界観、人間観を豊かにし、次世代の教育を担う未来の教員にとって有意義でした。

長い本学部の教員生活のなかで、学部改組に幾度も立ち会いました。最初は教員採用減少期を迎えた1988年の総合科学課程設置、次は1998年の教員養成課程の統合化、人間発達環境課程の設置でした。大学院の開設も大きな出来事でした。学部長を務めた2005年10月から2009年9月までの4年間には、松楠会会長をはじめ役員の方々には支援と激励を賜りました。総会や支部総会にもお招きいただき、楽しく歓談したことを憶えています。

私は、香川大学教育学部で、皆さま方のご支援のもと大学教員として育てて頂きました。松楠会並びに香川大学教育学部の今後の発展を祈念し、お別れの挨拶といたします。

退任のご挨拶

武重 雅文



本年3月31日をもって、定年退職いたしました。その折には、記念品料を受け賜り恐縮しております。この場をもちまして、御礼申し上げます。

さて、私が本学部に赴任しましたのは昭和57(1982)年10月のことですから、早くも33年半が過ぎ去ったこととなります。光陰矢の如しという通り、時の流れの速さに今更ながら驚くばかりです。この間、ゼミなどを通して多くの学生さん達と交流することができました。最初のゼミ生はもう54、5歳になるのでしょうか。そして最後のゼミ生が22、3歳。まさに青・壮の年代に達しました。そう考えますと、彼らの活躍に期待しつつ静かにフェードアウトする時期と思ひ至っております。

私自身は現在も高松に居住し、香川大学にも非常勤講師として週に何回か出向いております。もはや、老の眼で若い学生たちと接する日々が始まりましたが、

今後も変わらずお声かけ頂ければ幸いです。
最後になりましたが、松楠会の皆様のご活躍とご多幸をお祈りいたします。

貴重な3年間

谷本 里都子



交流人事教員として、平成25年度から平成27年度までの3年間、香川大学に勤務する貴重な機会をいただきました。松楠会を始めとする香川大学の方々には、大変お世話になりました。香川大学は母校でもあり、思い出のキャンパスで3年間勤務させていただいたことを幸せに思います。

教職をめざす学生に授業を通して、教職の魅力ややりがい、学生への期待や願いを語ってきました。授業や演習の準備をする際に、学習指導要領や各種リーフ

レット等を時間をかけて読み、自分の知識を再構築することもでき、学び直しの機会となりました。また、大学で出会った学生とのかかわりは、大学を卒業してからも、同じ学校で同僚教員として働く可能性があり、今後も楽しみです。

特に、平成27年度は、教職自主サークルに松楠会から多大なるご支援をいただき、感謝しております。先輩教員から学ぶ会、在校生と卒業生との交流会、現職教員に学生の模擬授業を指導していただく会等、教職をめざす学生にとって有意義な会を開催することができました。これらの会を通して、学生や若い卒業生が松楠会を近くに感じてもらったことが大きな収穫となりました。また、私自身、松楠会の学内理事の仕事をさせていただき、松楠会の存在意義に気付かされました。ありがとうございました。

私は今、坂出市立瀬居中学校の教頭として、教職員の方々とともに、子どもたちの居場所となるような学校づくりに日々、邁進しております。香川大学教育学部で勤務した貴重な経験を今後の教員生活に生かしていきたいと考えております。3年間お世話になり、本当にありがとうございました。

平成27年度松楠会支援事業

動くおもちゃ作り・木工教室

多田 照代 (教育・昭和46年卒)

近頃の子どもは、情報機器活用能力に長けているが、手先を使ってももの作りをする経験が少なくなっており、理科離れが進んでいます。

そこで、大川支部OB会員有志で体験教室を開催し、身近にある材料で簡単にできる動くおもちゃや木工作品を作り、子どもに作る楽しさや面白さを味わわせたいと考えました。

長期休業中に、公民館講座として、親子動くおもちゃ作り教室や木工教室を実施しました。また、園児の預かり保育、児童の放課後児童クラブ等で動くおもちゃ作り教室を実施したり、市民文化祭でおもちゃ作りコーナーを設けたりしました。参加した児童は延237人、保護者等延100人、指導した会員は延47人です。

作ったおもちゃで喜んで遊ぶ子どもの姿や、クマモンの振り時計を自慢げに持って「来年もぜひ来たい」と、お礼を言って帰る子どもを見るにつけ、次年度も頑張ろうと思いました。

27年度はさぬき市内で実施しましたが、28年度は東かがわ市でも、地元会員の協力を得て実施する予定です。

動くおもちゃを開発し、ご指導いただいた科学教育振興会の松原俊男・前田伸雄両先生と、活動に助成して下さった松楠会に心からお礼申し上げます。



ひみつ見つけはおもしろい！2015夏

中田シゲ子 (学芸・昭和40年卒)

「ひみつ見つけ」実験教室、8回目の実践でした。松楠会の支援を受けるのは初めての事です。子どもたちの実験については勿論、事前研修時の教材検討のためにも、いただいた支援が大きな力になりました。

本年度は、第1日が「水のジェットをとばそうよ！～連結管っておもしろい～」、第2日が「これは花火？イルミネーション？～LEDランプで作ろう～」の活動でした。

自然現象には現象の起こっている理由が必ずあるのに、私たちはそれらに気付かずにあるいは知らずに通り過ぎていくことが多いですね。そこで、子どもたちには少し立ち止まって気づかせ、現象の向こうにある理由を探り、ひみつを見つける面白さを楽しませたい、同時に私たち自身も同じ楽しみに浸りたい、それが実験教室を続けられる原動力です。

水のジェットで服がぬれようが平気、LEDの光を走らせるテグスを筒に挿し込む面倒にも耐え、いくつもの「ひみつ」を見つけ、活動は満足のうちに無事終了しました。



平成29年度松楠会支援事業の募集

高校生以下の児童・生徒を対象にした青少年の健全育成事業、教育活動事業などに対する松楠会支援事業を下記の要領で募集します。

- 1 支援する事業は、松楠会の会員が企画・実施の中心になっているもので、1事業につきおおよそ30万円を上限とする。
- 2 提出書類 …………… (1) 企画書 (2) 予算見積書 (3) その他参考資料等
- 3 応募締め切り …………… 平成29年1月31日
- 4 提出先及び問い合わせ先 … 〒760-8522 高松市幸町1-1 香川大学教育学部同窓会松楠会事務局
メールアドレス: syounan@ed.kagawa-u.ac.jp TEL: 087-832-1414

なお、同一事業の採択は、4回目までとします。選考結果については2～3月中に通知します。対象となる児童・生徒に募集案内チラシ等を配布する際には、この事業が松楠会(香川大学教育学部同窓会)の支援を受けていることを明記し、そのチラシを企画書または報告書に添付して提出してください。

支部だより

高松支部 takamatsu



百回をめざして

高松支部は今年五十回目の総会を開催する運びとなりました。ここまで受け継いでこられた諸先輩に、心から感謝申し上げたいと存じます。さて、今年は、皆様方よくご存知の前教育学部長山神教授に、ご講話いただくこととなっております。今後私たちが目指す方向や取り組むべき事柄について、ご示唆いただけるものと思っております。

現在の会員の中には、百回目の総会に参加される方も多くおられると思います。その間、市町村の合併や学校の統廃合、会員の意識など、現状で留まるとは思えません。活動のあり方や組織の在りよう等、今後について共に知恵を出し合っていればと存じます。

総会の運営に関しては、懇親の時間が少ないとよく聞きます。同窓会ですのでこの時間は大切にしていきたいと存じます。また、昨年からはまりました若い会員中心の会も充実させていきたいと思っております。〈多くの人の総会への参加をお待ちしております。〉

山下 祐一(教育・昭和43年卒)

丸亀支部 marugame



平成27年度の丸亀支部総会は、8月26日(水)10:30より、小比賀俊彦副会長を来賓に迎え、丸亀市民会館で開催しました。

ご逝去された先輩への黙祷、米寿の会員に記念品の贈呈を行いました。議事は、26年度の事業報告、決算報告、監査報告、27年度の事業計画・予算案審議と、とどこおりなく進行しました。

総会のあと、「家庭にあるもので、おもちゃをつくろう」のテーマで、スカイスクリュウと2足歩行ロボット「トコトコ君」を作りました。厚紙でできたプロペラを回し、ゴムを巻くと、くるくる回りながら真っすぐ上に揚がるスカイスクリュウ。初めてみる不思議な光景でした。また、重りに引かれ、左右に体をゆすりながらトコトコ歩くロボット。その姿はユーモラスでかわいいものでした。童心に返った時間であり、孫へのお

みやげができました。

懇親会も、楽しかったこと、苦勞したことなど、思い出を語って、過ごしました。来年の再会を約した楽しい半日でした。

前田 伸雄(学芸・昭和40年卒)

坂出支部 sakaide



松楠会坂出支部の平成27年度の会員は、現職133名、OB131名の計264名です。22のOB地区と21の学校地区による構成で、事務局を附属幼稚園に置いています。

平成27年度は、附属幼稚園において、5月下旬に役員会を行い、6月21日(日)には坂出支部評議員会を開きました。

坂出支部総会は、9月13日(日)に開催いたしました。ご来賓といたしまして、本部より、松楠会副会長の大山正子様、学内理事の中島栄美子様のご臨席をいただきました。総会においては、平成26年度事業報告・会計報告、平成27年度事業計画案・予算案審議、役員改選等が行われました。そこで、松楠会坂出支部の新会長として、大前正昭様のご就任されました。前会長の細川勝信様から引き継がれました大前会長様とともに、会員一同協力し、今後もつながりを深めていきたいと思っております。

今年度は、総会後に、坂出市史編さん所 所長 唐木裕志先生をお招きし、ご講話をいただきました。テーマは、『古代・中世の坂出ー菅公さんと崇徳さんー』。唐木先生は、現在の坂出から菅公さん、崇徳上皇さんにつながる歴史的場所、伝説等について、中世の文書や地図をもとにわかりやすく、また興味深くお話してくださいました。

その後、坂出プラザホテルで懇親会を行いました。近況等を語り合い、和やかな雰囲気ですをもつことができました。

今後とも、支部会員の皆様や本部の皆様のご意見を賜り、充実した運営を図りたいと考えております。よろしく願いいたします。

大川支部 okawa

平成27年度松楠会大川支部総会は、8月23日(日)に、さぬき市クアパーク津田にて開催されました。松楠会本部から森 美智子副会長をご来賓としてお招きし、29名の会員の出席をえて、盛大に行われました。

総会では、平成26年度の事業報告、会計報告、平成27年度の事業計画、予算案等について協議し、最後に



役員改選を行いました。記念講演には、香川大学に関わる先生という点から、教育学部准教授片岡元子先生に「就学前の教育・保育」と題して、ご講演をいただきました。

大川支部の平成27年度の会員数は、410名(OB会員223名 現役会員187名)です。今後とも会員相互に連携を深めるとともに、先輩の先生方や本部の皆様の指導を賜りながら、会員の研修、懇親の場として充実した運営を進めていきたいと考えています。



木村 彰伸(教育・昭和57年卒・さぬき市立造田小学校)

小豆支部 syozu



今年度の新しい試みとして、4月20日(月)にカローリング大会を土庄町のフレトピアホールで開催しました。カローリングは「軽やかにローリングする」として命名された競技で、氷上で行うカーリングをフロアで簡単にできるように考案されたものです。参加者は初心者ばかりでうまく目標のポイントゾーンに入らなればかりかあらぬ方向へジェットローラが転がって行ってしまったことも度々ありました。失敗をしても周りから大きな声があがり投げた本人は笑顔がこぼれ見ても微笑ましい光景でした。ましてや、ポイントゾーンに入ったときは歓声ホール内を揺るがしました。楽しいひと時を過ごし会員相互の心の交流がはかれた気がいたしました。

平成27年度松楠会小豆支部総会は、8月23日(日)に土庄町にある小豆島グランドホテル水明で開催されました。15名の会員が出席し松楠会本部から西山徹副会長のご出席を賜りました。総会終了後、会員の山本照幸先生が「定型俳句と自由律俳句」という演題で講演をしていただきました。先生の俳句の師である稲畑汀子女史との関わりと彼女の俳句一つ一つについて丁寧な説明がありました。尾崎放哉と山頭火の俳句の大きな違いを説明されました。尾崎放哉の句は静、山頭火の句については動に特徴があるといえます。改めて、山本先生の俳句に長年かかわってこられた経緯と意欲と情熱が強く心に残りました。

三木 吉昭(学芸・昭和39年卒)

木田支部 kita



平成27年度の木田支部の主な活動は、7月の役員会の実施と8月の総会・懇親会並びに教育講演会の開催です。8月27日の総会はトRESTA白山で開催し、ご来賓として松楠会本部より岩島卓男会長様、植田和也学内理事様にご臨席いただき、ご挨拶をいただくとともに、ご指導やご助言をいただきました。また、総会後の懇親会では昼食をとりながら、久々に顔を合わせた会員同士の近況報告や思い出話に楽しい時間が過ぎました。総会や懇親会には、若年教員の参加も増えてきており、今後も積極的な参加を呼びかけていきたいと考えています。午後からは、三木町文化交流プラザで木田教育会・木田地区医師会との共催で教育講演会を開催しました。講師は、えないメンタルクリニック院長の繪内利啓先生をお招きして、「発達障害・自閉スペクトラム症の理解と対応」と題してのご講演をいただきました。幅広く私たちが知りたいことや学びたいことについて紹介してくださり、大変有意義な時間になりました。教育講演会には現職の幼稚園・小・中学校の教職員や保護者にも声をかけ、100名を越す参加がありました。今後も会員の親睦を深めつつも、教育課題等についてお互いに学ぶ機会になればと思っています。

山地 茂之(教育・昭和60年卒・三木町立平井小学校)

香川支部 kagawa



平成27年度の会員は、小中学校の現職会員56名、OB会員63名、計119名の支部で、会員相互の親睦を図り、本部と一体となって教育振興に寄与することを目的としています。

平成27年度は香川第一中学校の「特別活動」大野小学校の「生徒指導」の研究発表会への支援を行いました。

支部総会は現職会員の参加を容易にするため、毎年8月に開催します。その効があり、例年に比して現職会員の参加が多く嬉しい会となりました。

総会后、引き続き講演となり、母校の坂井聡教授よりご講話をいただきました。「特別支援教育について」と題して、クラスの全員が活動できるように、誰もが

支部だより

持つ状態としての障害、活動の制限や参加の制限を障害としてとらえること。周囲の理解や支援によって本人を支えていくこと。できないところを見るのではなく、できるところを見ることなど、人間が成長していく上で基本的な視点を教えていただきました。

妹尾 長(教育・昭和34年卒)

綾歌支部 ayauta



平成27年度の支部会員は現職会員200名、OB会員181名、計381名です。

本年度松楠会は地域活力向上のため「若年会員活性化事業」を立ち上げました。事業を推進するためには会員相互の交流を深め、特に現職会員とOB会員の連携を強化することが必要です。支部では、その手始めとして、全会員が気軽に参加、楽しめる総会の開催を企画し、現職会員の参加を積極的に呼び掛けるとともに、総会時に新規採用教員の歓迎会を開催すること、さらに会報を発行し全会員に配布することにしました。

年度初めより数回の役員会を開き準備を進め、支部総会を8月22日(土)、ホテルサンルート瀬戸大橋で開催し、ご来賓として本部より大山正子副会長様のご臨席をいただきました。総会の議事終了後、音楽専攻のOB教員で編成されたグループ「テルandマサ」楽団による音楽ライブ(演奏とトーク・歌)の会が開かれ、楽しく心と体がいやされるひと時を過ごしました。その後の歓迎・懇親会では現職とOB会員が互いに親しく話し合いがもたれ和やかな会となりました。

9月16日には総会の報告を中心に会員の近況状況報告等を内容とした「松楠会綾歌支部だより」を発行し全会員に配布することが出来ました。

宮本 昭司(学芸・昭和35年卒)

仲善支部 tyuzen



仲善支部の会員は、OB212名、現職168名の計380名です。年2回、総会と新年祝宴会を開催し、交流を深めています。

《総会》8月8日(土)参加会員33名

ご来賓として、副会長西山徹様、学内理事坂井聡様、仲善地区から教育会会長大西晏様、小学校長会会長片井功様をお迎えし、開催しました。総会に先立ち、ご逝去された先輩への黙祷、米寿会員への記念品の贈呈。総会后、香川孝典先生のご指導のもと、干支の竹細作りを楽しみました。出来上がった「未」の置物に参加者は大満足。今年度は「申」の置物作りです。



《新年祝宴会》1月10日(日)参加会員31名

総会時と同様に香川大学、仲善教育会、仲善校長会よりご来賓をお迎えしました。年始にふさわしく、田中仁先生には吟詠、多田紀男先生にはヴァイオリン演奏を披露していただきました。懇親の場では、近況を報告し合ったり学生時代、教員時代の思い出に話を弾ませたりして笑顔いっぱいの時間となりました。

この会合が先輩、後輩との交流を深めるいい機会であることは確かです。今後、参加会員が増えるよう会の運営を工夫するとともに、声をかけ合って広げていきたいと思っています。

武田 眞智子(教育・昭和51年卒)

三観支部 sankan



三観支部では、2年に1度、総会並びに記念講演会、併せて懇親会を開催しています。今回の総会は、去る平成28年3月15日、本部から、森美智子副会長様、高木愛学内理事様をお迎えし、会員37名が参加しての開催となりました。

総会では、平成26・27年度の事業報告や決算報告等の審議の後、役員改選があり、会計の改選が承認されました。

総会の後、講演会では、観音寺市教育委員会文化振興課副主幹の久保田昇三氏から「大野原古墳群 国指定への道」と題して講演がありました。大野原古墳群(椀貸塚古墳、平塚古墳、角塚古墳)は、古墳時代後期に造られ、卓越した墳丘規模であること、横穴式石室の規模は四国において最大級であること、首長基が三代にわたり継続的に築造されたことなど、長年にわたり積み重ねてこられた調査研究の一端を熱く語っていただきました。さらに、四国を初め西日本における政治や社会の在り方を知る極めて重要な遺跡として、国の史跡に指定されたことも紹介されました。

参加した会員は、古墳が築造された時代の豪族の動向、政治や暮らしの様子など、古代の大野原に思いを馳せながら、興味深く講演に聴き入っていました。

三谷 光雄(学芸・昭和49年卒)



大阪支部

osaka



平成27年9月9日に大阪支部総会を実施しました。平成23年度以来久しぶりの開催でしたが、12名の会員が集まり終始和やかに楽しく過ごすことができました。

支部総会の案内の往復はがき「返信」よろしくお願ひします。

(大阪支部支部長)

兵庫支部

hyogo

兵庫支部紫雲会は、年1回の定期総会を開催し続けながら、ここ数年は若い会員を対象にした懇親会を計画して開催しています。



27年度の総会は9名の参加者でしたが、和気藹々とした雰囲気の中で、懇親を深めることができました。参加者一人一人が近況を話していく中で、香川大学

時代の思い出話にも花が咲きました。また、香川大学からは植田先生にもご臨席を賜り、大学の最近の様子を含めた貴重なお話をいただきました。さらに、植田先生に手品を披露していただき参加者一同驚きながらも楽しみました。手品の種明かしやご指導のもと、とても楽しくあっという間に時間が過ぎました。

また、若手懇親会(将来の夢を語る会)を平成28年1月9日に開催しました。参加者は6名と少なかったですが、「兵庫県立人と防災未来センター」を見学し、減災を目指して、日常の生活から見直さねばと話し合いました。午後からは懇親会をし、近況や大学のことなどを話し合い、とても有意義な時間を過ごすことができました。世代を超えた交流も目指している兵庫支部の素晴らしい取り組みと自負しています。

しかし、会の運営のために、役員会を計画しますが、役員員の日程調整が年々困難になっています。現役の先生方は子どもの指導や学校での役割等で、忙しくしておられます。課題が多くなっています。

さて、28年度の総会は、6月19日(日)に例年通り神戸の三宮にあります「西村屋ダイニング」にて開催します。神戸市以外でも開催しましたが、参加者は20名に届きません。

縦糸である先輩、後輩の世代間交流と、横糸である

同年代の交流を目指して、人とつながりを大切に今後も支部活動を計画したいと考えています。年1回の半日を大学の仲間と過ごすために、1歩を踏み出してほしいと願っています。

兵庫支部(紫雲会)役員

支部長 池内 幹夫(昭和46年卒)

理事 木岡 正雄(昭和48年卒)

評議員 大坪恵美子(昭和49年卒)

支部委員 宮崎 謙(昭和50年卒)

須加多由雄(昭和55年卒)

渡辺 一功(昭和63年卒)

松下 明申(平成16年卒)

顧問 細瀬 誠浩(昭和43年卒)

山川 寿夫(昭和62年卒)

大坪 和洋(昭和50年卒)

宮本早夕里(昭和61年卒)

松下ひろみ(平成15年卒)

木岡 正雄(教育・昭和48年卒)

岡山支部

okayama



平成27年度、8月9日(日)に開催された支部総会では、教育学部教授の青山夕夏先生に「音楽のたのしみ～フルート作品を通して～」の演題で、多くのフルート楽曲の演奏を交えながら講話をしていただきました。間近での視聴では、やさしく・やわらかい音色と共に、全身を使った演奏者の動きや息遣いまでも直に伝わり、感動の時を過ごしました。同じ木管楽器でもある尺八が堪能なOB会員からの多彩な質問にも楽しく丁寧に答えていただき、会は大いに盛り上がりました。

毎年の大きな課題ですが、できるなら、多くの参加者・それも若い人たち・現役の若者たちの参加を得て感動を分かち合い、懇親会でも胸襟を開いて語り合いたかったです。毎年参加者数が二十数名とほぼ同じ顔ぶれで、世代を超えて参加者の輪が広がっていかないのは残念です。支部事務局を引き受けて久しいが、現代の若者気質は同窓の会には無関心なのか、価値を見いだせないのか? 職場が忙しすぎるのか? コミュニケーション能力の不足ゆえに年配者との会話が不得手なのか、鬱陶しいのか? ...次第に私の活動意欲がすぼんでいくのも事実です。今年こそ是非、支部総会や登山ハイクに積極的に参加してもらいたいと思います。

横山 茂樹(教育・昭和51年卒)

第5回 ホームカミングデー

平成28年10月30日(日)

実施予定

詳細が決まりましたら、松楠会HPに掲載します。

平成28年度松楠会役員

*は、今年度新しく交代された方と、以前の役職に復された方です。

役員

会 長 小比賀俊彦*
副会長 大山 正子
西山 徹
中西真理子*
梶野 雅義*

顧 問 毛利 猛*
理事長 山神 真一*

学内理事 佐藤 明宏* 藤田 尚史 坂井 聡 西田 智子 貞廣美津子 片岡 元子
山本木ノ実 植田 和也 塩井 実香 中島栄美子 大浦みゆき 高橋 智香
稗田 美嘉 高木 愛 佐藤 盛子* (但し、高木・佐藤(盛)の学内理事期間は、人事交流の期間とする)
附属理事 赤熊 俊二(高松) 樽本 導和(坂出)



会長、副会長、理事長

支部事務局

	郵便番号	住 所・勤務校	担当者
高 松 支 部	761-8084	高松市一宮町672-1 高松市立一宮小学校	田中 義人
丸 亀 支 部	763-0051	丸亀市今津町348 丸亀市立城坤小学校	北浦留理子*
坂 出 支 部	762-0031	坂出市文京町1-9-4 香川大学教育学部附属幼稚園	
大 川 支 部	769-2312	さぬき市造田是弘688-1 さぬき市立造田小学校	木村 彰伸
小 豆 支 部	761-4152	小豆郡土庄町黒岩729-1	三木 吉昭
木 田 支 部	761-0702	木田郡三木町平木710-1 三木町立平井小学校	山地 茂之
香 川 支 部	761-1611	高松市塩江町安原上231 高松市立塩江小学校	上田 哲也
綾 歌 支 部	769-0210	綾歌郡宇多津町2003	宮本 昭司*
仲・善 支 部	764-0026	仲多度郡多度津町南鴨366-3	武田真智子*
三・観 支 部	768-0060	観音寺市観音寺町甲2558-1 観音寺市立観音寺小学校	三野 正
愛 知 支 部	470-1167	愛知県豊明市栄町西大根99-24	古田三千年
大 阪 支 部	567-0884	大阪府茨木市新庄町6-9	信垣 綾子
兵 庫 支 部	651-2277	兵庫県神戸市西区美賀多台4-7-20	木岡 正雄
岡 山 支 部	709-0221	岡山県備前市吉永町金谷647-2	横山 茂樹
徳 島 支 部*	771-3201	徳島県西郡神山町阿野字五反地187-1	大草 晴香*

事務局報告

平成28年度評議員会(総会)の報告については、松楠会ホームページをご覧ください。

平成27年度 松楠会支援事業

- ひみつ見つけはおもしろい! 2015夏(三観支部 代表 中田シゲ子 他6名)
- 動くおもちゃ作り・木工教室(大川支部 代表 多田 照代 他10名)

平成27年度 学生支援事業

- 未来からの留学生(平成27年10月11日 香川大学幸町キャンパス)
- わくわくコンサート(平成28年2月14日 サンポートホール高松)

平成27年度 表彰者

- 佐藤 明宏 『10年目までにマスターしたい研究授業の作り方』 2万円
- 谷本里都子 『教員としてのはじめの第一歩』～若き力を生かしてはばたけ～ 2万円
共編著 植田和也、山本木ノ実、高木 愛、田崎伸一郎
- 植田 和也 『道徳教育に求められるリーダーシップ』 2万円
共編著 七條正典

松楠会基金の会員表彰制度をご存じですか?

本を出版されたり、発表会・展示会の開催、競技会等で優秀な成績を挙げられたりした会員の方々を表彰しております。該当者は、ぜひ事務局までお知らせください。また、情報をお持ちの方もご一報を!



多様な視点をもち、 自ら求めていく若者に！！

香川大学教育学部 非常勤講師 貞廣 美津子



母校で教員養成に関わる機会をいただき、家庭科教育関連の講座を受け持つようになって3年目を迎えています。当初は、自分が在学していた40余年前と現在の大学の変化にとっても驚きました。全学の先生が関わる授業があること、推薦で入学してくる学生もいること、1年生はクラスに所属し2年生から専門の研究室に所属すること、昔と比べて教科教育の専攻人数が少ないこと、学生による授業評価がきちんとしていること、教職関係の講座が充実していること等々です。さらに、学習環境が充実していることにも驚きました。どの教室も情報機器がそろっていて、手軽にICT教育ができます。また、学生会館と図書館の間には「オーリーブ・スクエア」ができ、学びの場、憩いの場、交流の場としてのおしゃれな空間となっています。かつて私が通ったマンドリンクラブの部室があった経済学部には講堂もできています。さらに、国際交流スペースがあり、キャンパス内で留学生の姿も見かけます。

さて、私が担当している授業は、小学校免許を取得する学生に必修の「初等家庭科教育法」や中学校・高等学校家庭の免許を取得する学生の「家庭科教育法」、「家庭科授業研究」など5講座です。学生たちの殆どは教職をめざしており、熱心に取り組んでいます。「初等家庭科教育法」は受講者数90名余と人数が多いので活動が制限されるのですが、講義と共に、VTRで授業を見て学習したりグループワークでテーマについて話し合ったりしています。また、グループで教材研究や指導案作りをして模擬授業を行い、教育実習や教壇に立つ準備もしています。「家庭科教育法」や「家庭科授業研究」など専門の授業は、人数が少ないので演習形式を主体に、いろいろなテーマについての調査活動や情報交換をしながら、多様な見方、考え方、教科の指導力を高めるべく取り組んでいます。



今、学校現場は、とても若返っています。当然のことですが、若者がもつフレッシュなよさと共に課題もあります。そこで、授業では、教科で大切にすることや指導内容だけでなく、組織としての学校、子どもたちの現状や環境、どんな児童・生徒を育てていくのか、子どもたちにどう向き合うのか、どんな教師をめざすのかなどについても話題にし、考えさせる機会をもつようにしています。与えられるのを待つのではなく、自分から周りに働きかけ、求めていく人になってくれることを願っています。

平成28年度 教職実践研究交流会 があります。 平成28年8月6日(土) 13:00~17:00

是非ご参加下さい。詳細は松楠会HPをご覧ください。

松楠会ホームページ <http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~syounankai/>

編集後記 ■ ■ ■

- 原稿執筆にご協力をいただきました皆様のおかげで
- 会報を発行できますことを心から感謝申し上げます。
- 今後も松楠会並びに教育学部を見守り積極的にご参加いただくために情報をお届けして参りたいと考えております。松楠会HPにもたくさんの情報を掲載しておりますので、是非ご覧いただけますようお願いいたします。



松楠会報

第53号

発行日 平成28年7月20日

発行人 小比賀俊彦

山神 眞一

編集 片岡 元子

山本木ノ実

中島榮美子

植田 和也

香川大学教育学部同窓会 松楠会